



これからの技術開発に想う ものづくりの原点に帰る

専務取締役
林田 晋

本年は弊社も創立70周年を迎えます。弊社技報第10号の巻頭に当り一言ご挨拶申し上げます。

21世紀になり早三年を迎えた今日、世界はますます昏迷の度を極め、社会構造、経済構造上の大変革の時を迎えています。将来を見通すことの非常に難しい時ではありますが、このような時にこそ、企業存続のためには、基本に立返った対応が必要ではないでしょうか。

私どもの所属する特殊鋼業界におきましても、材料メーカーに対しては、従来からのより良いものをより安く確実に、というご要望に加え、材料が使用されている各種部品に対応する高機能化材料の要求やお客様のグローバル展開に沿った対応、あるいは地球環境保全に貢献する活動等、より高度化、複雑化したご要望が寄せられています。

私どももこのようなお客様の多様なご期待に応えるべく、第5次中期経営計画を発表し、現在二年目の計画を推進中であります。その主な内容として、コスト競争力の強化、技術力の強化、営業力の強化、素形材・粉末事業の強化、地球環境への貢献などを重点項目として挙げています。

技術は常に進歩するものであり、停滞することすなわち後退を意味します。技術開発、研究開発無くして製造会社の将来の展望はありません。当社は伝統的に「技術の山陽」として、技術を重視して参りましたが、この不透明な時代を切り拓く上でも、今後とも新商品、新技術の開発を強力に推進して参る所存です。

先頃、内閣府の総合科学技術会議が発表した今後発展が期待される技術分野として、情報通信技術（IT）、生命科学、環境・エネルギー対応、物質・材料研究およびナノテクノロジーの4分野が挙げられています。

当社では、これらの技術分野に対して、IT分野ではコンピューターに使用される用高機能ステンレス鋼や各種エレクトロニクス用材料等を、環境・エネルギー対応では、鉛フリー快削鋼、東京都と共同開発したごみ焼却炉発電ボイラチューブ、高圧送電線用高強度インバー合金等、また、ナノテクノロジーの応用開発として分子、原子レベルのナノサイズ微細析出物TiCの強化機能を活用した高機能材料等を開発し実用化しています。

これらの高機能材料を現実のものとして作り上げるにはそれに対応する高度の製造技術を必要とします。当社の「超高清浄度鋼製造技術」は、量産鋼の分野において高信頼性化、長寿命化、高歩留化、高冷鍛化を可能にし、お客様の生産合理化やコストダウン、ひいては総使用量の低減により地球環境保全にも貢献するところ大であり、当社の誇るコア技術です。この超高清浄度鋼製造技術は技術者がものづくりの現場に入り込み、そこで起る現象を熟知して作り上げた技術ですが、今後、さらに最新の設備技術や評価技術、CAE等の解析技術を駆使して、研究と現場とが一体になってプロセス技術の開発、レベルアップを図って参ります。

この現場に密着して技術開発を進めていくことの重要性は、材料やその加工技術を開発する場合にも全く同様ではないでしょうか。実際の部品の使用条件、使用環境、加工方法や設計基準を熟知した上で、最適の材料や加工方法の開発を進める。このことは我々材料メーカーだけで出来るものではありません。実際に材料を部品に加工し、最終製品として使用されるお客様と当社技術者とが密接な連携のもとに開発を進めていく必要があります。お客様のご協力、ご指導が欠かせないものであります。

今後とも材料メーカーとしてお客様により一層の信頼を頂けるよう、努力していく所存であり、よろしくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。